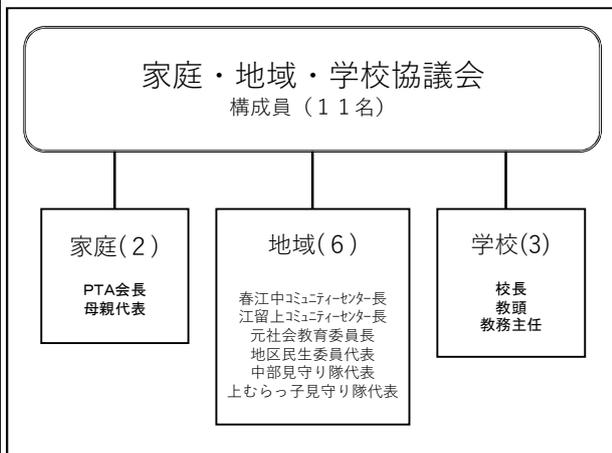


令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

坂井市立春江小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

※開催回数	年2回
※開催日程	6/21、2/20
※協議内容	
6月	2月
オープンスクール (授業参観)	教育活動の報告
委員の委嘱	取組に対する評価検討
本会の趣旨説明	次年度への課題について
学校経営方針	
年間活動計画について	
意見交換	
給食試食	

(3) 協議会における成果と課題

①スマートホンやゲームの使用状況について

時間は長すぎるが、これからの社会を考えると一律に時間を制限するわけにも行かないのではないかという意見が出た。スマートホンを学習等に利用する場面もあるだろうが、ゲーム使用による時間については、やはり制限をする必要あるとの結論に至った。

また、スマートホン等の使用時間と肥満と関係があるのではないかという意見も出た。これは、本校児童が、学年が大きくなるにつれ、高度の肥満児が多くなっていったためである。相関を示すデータはないが、校医の先生とも連携しながら取り組んでいくことにした。

②新学習指導要領に関連して

来年度から英語やプログラミングが導入されるように、今後コミュニケーション力が重要になってくる。コミュニケーション力が身に付くようにしてほしいとの要望があった。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

本校が位置する坂井市は、70年前に福井大震災という大きな自然災害に見舞われた。近年、日本各地で大きな地震や大雨などの自然災害が発生している。坂井市においては、大雪や大雨による災害は多少あったものの、幸いにも大きな地震等は発生していない。

そこで、いつ起こるかかわからない災害に対して、過去の災害を地域の方から学び、安全安心な将来の地域づくりのために、自分たちができることを考え行動できる児童を育成する。

(2) 活動の実際

①災害が起きたとき必要なことについて調べよう(5年生)

まず、福井大震災で春江の町がどのような様子だったのかを新5年生が理解するため、昨年度の5年生が作成した資料や地域のコミュニティセンターで、震災の写真や体験記などの記録を調べた。

そして、地域コーディネーターの方に震災を体験された地域の方を紹介していただいて、直接福井大震災の話聞く会を設けた。児童は、町の様子の変わり方に驚き、地震の恐ろしさを実感することができた。

(様式3)

②非常食を作ってみるなど、災害時の生活を体験しよう（5年生）

坂井市安全対策課に協力していただいて、学校にある防災倉庫を見学し、防災倉庫内の簡易ベッドやトイレ、非常食づくりの体験を行った。

また、普段使用しているエアコンがガスで動いており、大きなガスタンクから供給されているのは災害対策であること、緊急時には中庭の浄化槽から給水できることを学んだ。災害時に学校を避難所として利用するために、建物だけではなく、多くの工夫と準備がされていることを知ることができた。

テレビや新聞の取材もあり、ニュースで放映されたり、新聞記事に掲載されたりしたことで、児童の活動意欲を高めることができた。



令和元年9月27日 非常食づくり体験

③調査・体験したことをまとめて、地域の方に発表しよう（4、5年生）

福井地震について調べたり、避難所設営や非常食づくり体験をしたりして、気付いたことや自分たちの考えを周りの人に発信した。ポスターセッション形式にて、オープンスクールを利用してクラスごとに保護者の方に伝えたり、1月23日(木)に防災発表会を開いて4年生やコーディネーターの方々に伝えたりした。分かりやすく伝わるように再度調べたり資料を工夫したりし、これまでの学習を深めることができた。



4年生や地域の方への発表会

(3) 地域コーディネーターの活動概要

①地域コーディネーター（2名）

春江中コミュニティセンター長、江留上コミュニティセンター長

②地域コーディネーターの活動概要

- ・全体計画に対する指導
- ・坂井市、自主防災団体との連携
- ・福井大震災に関する講師紹介
- ・発表会への参加

(4) 特に工夫した事項

- ・体験事業を取り入れるに当たって、コーディネーターを通して坂井市安全対策課とも連携し指導を仰いだ。
- ・福井地震体験会や避難所設営、非常食づくりなど、地域の方や坂井市安全対策課と綿密に打合せをした。児童が、災害時の避難生活に何が必要かを主体的に考え活動できるように内容を組んだり、変更したりした。
- ・三年間の活動計画を元に、見直しをもって活動することができた。

(5) 成果と課題

児童にとって「災害時に何が必要か」を深く考える良い機会となった。また、地域に災害に備えて様々な工夫がなされていることを発見することができた。

今後は、児童が地域に向けてできることは何かを考え、行動を起こせるよう取組を進めていく必要がある。